

産学官で「都市鉱山メダル連携促進委員会」を発足しました。



2016年10月21日、愛知県大府市・至学館大学・リネットジャパン株式会社の3者が連携して、都市鉱山メダル連携促進委員会を発足しました。また、その発足式を至学館大学レスリング道場で、愛知県大府市の岡村秀人市長、至学館大学の谷岡郁子理事長・学長、五輪メダリストの吉田沙保里選手・登坂絵莉選手・川井梨紗子選手・土性沙羅選手も参加して、実施しました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、21世紀に目指す持続可能な社会の姿をアピールするため、大会のシンボルとも言えるメダルに、日本の使用済小型家電に含まれる資源(=都市鉱山)を活用する検討が進んでいます。

※大会組織委員会が発表した「東京2020アクション&レガシープラン2016」にも、メダルに都市鉱山の活用を検討することが明記されています。

このたびの産学官連携の委員会発足を機に、2020年・東京オリンピックで「都市鉱山メダル」が正式に採用されることを目指し、自治体による小型家電リサイクルのイベント、住民への普及啓発・署名活動等を「都市鉱山メダル運動」として実施し、その運動をアスリート・学校等と連携して展開することで、世論の喚起を行います。また、全国の自治体・学校等の教育機関・小型家電リサイクル法の認定事業者等が、本委員会に参加する予定です。